

令和になって初めてのお正月は暖かい日が続きました。暖冬はありがたいわけですが、温暖化や降水量の変化が自然環境や農作物へどんな影響を及ぼすのか心配な昨今であります。

2月から3月にかけては、新年度予算の編成、機構改革、役場の人事異動など、新年度を迎える準備に忙殺される日々が続いています。定年や任期満了で去っていく方々、新たに働く仲間として迎える方々。まさに人事往来真っ盛りという時期です。

にぎやかな過疎。

これは明治大学農学部教授で過疎問題の専門家である小田切徳美先生が提唱されている概念ですが、その意味するところは「人口が減っているが何かわいわいがやがやしている」こととされています。私もこの「にぎやかな過疎地域」に本村もなっていて欲しいと考えています。

その思いで最近の村内の出来事を挙げてみますと、がんばる地域づくり補助金でこもれびの里の村有林が「みんなのおやま」として活動が始まる事、「旧越原上校舎の大掃除イベント」の第2回目が行なわれた事、「株式会社ふるさと企画と山に生きる会のクラウドファンディングが目標達成」した事、「東白川村の米粉を使ったローカルスイーツ・クッキング講座」が開かれた事、「山村ミライがっこう」の第2回目(2限目)が開かれた事などなど、結構ニギヤカだと思いますが、残念ながら一部の方々だけにしか知られていないという感が否めません。

こうした活動の輪を広げていくのも私の仕事であると思っています。前述の小田切先生は市町村の多様性と自主性が重要であり、これからの日本は『都市なくして農村なし、農村なくして都市なし』と説かれています。

都市と農村の共生、個性ある地域づくりが課題です。

2月は節分を境に少しずつ春めいて、今年は梅の開花も早そうですが、寒暖の差が大きくなってくる時期でもあります。インフルエンザも流行しています。私は朝晩お茶でうがいを励行しています。すでにその効用は実証済みとも言われていますが、私も効果抜群と言えるよう続けたいと思っています。皆さんも、くれぐれも体調管理に注意していただいて、健やかに過ごして下さることを願っています。

令和2年2月

東白川村長 今井俊郎